

## 自然の力

九州北部地方を襲った豪雨は多くの被害をもたらしました。中津でも下毛地域を中心に被害が発生しているところ。 「自然の猛威」を思い知らされたように思います。これから台風シーズンです。また、夏休みに入り、海・山・川などと触れ合う機会も増えます。自然の豹変に注意！

## 生徒たちの変化

一学期が終わろうとしています。生徒たちのプラスの変化には驚かされます。入学式直後、不安げな様子だった1年生のちょっとたくましくなった姿、頼りなかったけど自信をつけてきた2年生、市総体のあと次の目標に向かい踏み出している3年生、この数か月で随分成長したように思います。 これからも当然、子どもたちは絶えず変化していきます。プラス、マイナスの変化を繰り返していきながら成長していくのです。大人として大切なことは、この変化の「変わり目」をしっかり見極め、見守ってあげることではないでしょうか。

## 夏の思い出…

4月から久しぶりに毎日中学生と接するようになって、ふと、「自分が中学生の時はどうだったかなあ」と考えました。 県南の中学校(各学年2クラスで全校240名程度)で多感な3年間を過ごしました。毎週テレビで「巨人の星」を見て、主人公の星飛雄馬に憧れ、本気でプロ野球の選手になりたいと考えていた夢多き野球少年でした。 そのころは、夏の甲子園大会で大分県代表の津久見高校が全国優勝したこともあって大分県全体が野球一色でした。夏休みは毎日野球の練習、練習が終われば近くを流れる清流「番匠川」で友達たちと「ちょん掛け」という独特の漁法でアユを捕まえる。昼寝してちょっと宿題をする。そして、2学期の始業式が近づくにつれて段々お腹が痛くなる(笑い)中学生でした。夏の思い出は「野球」「川遊び」「アユ」、40年以上前の話です。

また、中3の担任(厳しいが本気で生徒に接していた)に出会えたことが、今思えば、自分の将来の道を決めることになったと思います。親以外で一番身近な大人は先生でした。ぼんやりですが、「こんな先生になりたいな」と思い始めた頃です。人との出会いの大切さを実感しています。この先生は高齢で大病もされましたが、ご健在であり今でも心の支えになっています。

## 暑い夏だからこそ、読書！

確実に老眼は進行していますが、結構読書しているつもりです。東野圭吾作品をクーラーの効いた部屋で読むことがマイブームになっています。「時生(ときお)」、「宿命」、「変身」、「秘密」、「ナミヤ雑貨店の奇蹟」…。面白い本に出合ったら、その人の作品を読み漁る。これも読書法のひとつかもしれません。今の中学生にとっては、とにかく活字に触れる機会を増やすことが大切です。軽い気持ちで読書してみませんか。

## 今週のことば むのたけじ「詞集たいまつ」より

考えてから試すのか、試してから考えるのか。というような議論にふけっている間は、とどのつまり考えもせず、試もしない。

実践者はすべて、考えながら試し、試しながら考えている。

ニワトリとタマゴの先後争いに熱中するものは、タマゴを踏みつぶしてしまう。